

## 「歯原性腫瘍の発症状況に関する全国調査」に該当する患者さんへ

「歯原性腫瘍の発症状況に関する全国調査」と題した研究を計画しています。対象者に該当する患者さんにおきましては、下記研究内容をご確認いただきご協力をお願い申し上げます。なおこの研究は、東京歯科大学市川総合病院の倫理審査委員会で承認され、同病院長が実施を許可しています。ただし、対象者に該当する可能性のあるかたで、診療情報等を研究目的で利用することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。ご協力いただけない場合でも患者さんに一切の不利益は生じません。また、ご協力いただきましても謝礼等はありません。ご理解いただきたくお願い申し上げます。

研究課題名	歯原性腫瘍の発症状況に関する全国調査 (倫理審査委員会承認番号：124-42)
研究責任者	東京歯科大学口腔腫瘍外科学講座 主任教授 野村武史
本研究の目的と意義	歯原性腫瘍は歯の発生にかかわる組織に生じる腫瘍で、代表的な歯科疾患であるう蝕や歯周病などと比較し、まれな疾患のため、わが国での発生状況が明らかになっていません。また、歯原性腫瘍のうち代表疾患であるエナメル上皮腫は、若年者に発症しやすく、再発しやすいためにしばしば問題となり、しかも全国の診療施設における診断、治療方針は必ずしも画一的ではないという問題を抱えています。今回、一般社団法人日本口腔腫瘍学会が委員会を立ち上げ、全国の診療施設が協働しておこなう全国調査を実施することとしました。本研究で、全国での歯原性腫瘍の発生状況や診療内容などを明らかにすることにより、治療の均てん化（全国で高度でかつ平均的な医療の提供を実現すること）を図り、最終的には診療ガイドラインを作成することを目的とします。
研究の対象になる患者さん	2018年1月1日から2023年12月31日までの6年間に、全国の歯科・口腔外科を受診し、病理組織学的に歯原性腫瘍と診断され、治療が実施された患者さんです。

研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象になる患者さんのカルテを用いて調査します。</li> <li>・診断名（2024年のWHO国際分類に準拠します）、年齢、性別、発症部位を調べます。さらにエナメル上皮腫については、主訴（おもな症状）、特徴的な画像（レントゲン）所見、治療法、再発の有無や期間などの診療情報を集計します。</li> </ul>
研究を行う期間	この研究の実施が認められてから2027年3月31日まで。
個人情報取り扱い	患者さん個人を特定できる診察券番号、氏名、生年月日は削除して、研究用の番号に変えて取り扱いをします（仮名加工情報といいます）。なお、患者さん個人を特定できる情報は全国の診療施設のみで照合可能であり、研究施設では個人を特定できないかたちでデータを取り扱います。データの授受はセキュリティを確保したクラウド上で行います。
研究データの保管	2032年3月までパスワードをかけたUSBで院内の施設可能な場所に保管します。研究期間終了後5年間これを保存し、その後破棄します。
本研究の資金源	講座の研究費で行います。
企業などとの関係	この研究に企業や営利団体は関わっていません。
お問い合わせ先	<p>この研究に協力したくない場合や、研究についてさらにお知りになりたい場合は下記にご連絡ください。</p> <p>【お問い合わせ先】  東京歯科大学市川総合病院 口腔腫瘍外科学講座  研究代表者 野村武史  047-322-0151（代表）</p>
備考	診療情報等について、研究目的で利用することを希望されないとお申し出いただいた場合に、ご留意いただきたいことがあります。研究がある程度進んで解析をはじめてから、特定の患者さんの情報を取り除くことができないことがあります。その点につきまして、ご希望に添えない場合が生じる可能性があります。あらかじめご承知おきください。